

議 事 録

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----|---------------------|-----|--|----|--------------|-----|--------------|----|---------------------------------------|-----|---------------------------------|
| 会議名 | 令和4年度 第3回三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議議事録 | | | | | | | | | | | | |
| 日 時 | 令和5年2月7日(火) 午後7時00分～午後8時30分 | | | | | | | | | | | | |
| 会 場 | 三鷹市教育センター 二中研 | | | | | | | | | | | | |
| 出席委員 | 【委員】 神崎恒一、菊池健、木之下徹、名古屋恵美子、斉藤貴彦、上遠野範子、道三啓吾、服部将志、望月謙治、吉本朋子 <定員数11人中10人出席：有効> | | | | | | | | | | | | |
| 事務局 | 健康福祉部調整担当部長兼旧どんぐり山施設整備担当部長、高齢者支援課長、他事務局2人 | | | | | | | | | | | | |
| 会議の公開・非公開 | 公開 | | | | | | | | | | | | |
| 傍聴人数 | 0人 | | | | | | | | | | | | |
| 1 開会 【健康福祉部調整担当部長兼旧どんぐり山施設整備担当部長馬男木より挨拶】 今年度の本会議ではチームオレンジの議題を中心にご意見をいただき、スモールスタートではあるが形にすることが出来た。引き続きご意見をいただきたい。来年度は第九期介護保険事業計画の策定の時期になる。認知症施策をどの様に反映させていくか考える必要がある。神崎会長には介護保険事業計画策定委員会のメンバーに加わっていただいている。本会議で議論した認知症施策を計画にも反映させていくことができると考えている。 私自身は3月で定年退職を迎えるが、後任に引き継ぐので、引き続きよろしくお願ひしたい。 【事務局からのお知らせ】 ・議事録の作成と公開について ・本日の配付資料の確認 | | | | | | | | | | | | | |
| 2 議題 (1) 「認知症サポーター活動促進事業（チームオレンジ）について」 SOMPO ケアの有料老人ホームの菜園を借りて作業を始めている。認知症サポーターのフォローアップ講座を受講済みの方に声かけを行い、1月30日に説明会を実施した。三鷹市全域から参加者が集まった（男性3人女性5人）。月2回第2、第4水曜日に活動を行う予定で2月6日に第一回の活動を行った。一時間程度、雑草取りなどを行った。今後は SOMPO ケア以外の活動の場を広げていきたい。啓発のためのチラシも作成した。 現在試験運用中の三鷹地域ポイントだが、令和6年度の本格始動時にはコラボしても面白いかもしれない。また、「認知症パートナー」という呼称への変更も検討していく。 ア 質疑応答及び委員からの意見 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">委員</td> <td>集まった人々はどの様な人達だったのか。</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>男性では農業経験のある方、自身も体が不自由だが、外で活動したいという方がいる。女性では元々三鷹市で勤務していたが、仕事が一段落したので、参加しているという方もいる。</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>サポーターの方の年代は。</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>60、70代が多い印象。</td> </tr> <tr> <td>委員</td> <td>高校など、各学校にチラシを配布すれば様々な年代の人々が集まるのではないか。</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>小学校などでキッズの認サポ講座を行っていることもあり、検討した</td> </tr> </table> | | 委員 | 集まった人々はどの様な人達だったのか。 | 事務局 | 男性では農業経験のある方、自身も体が不自由だが、外で活動したいという方がいる。女性では元々三鷹市で勤務していたが、仕事が一段落したので、参加しているという方もいる。 | 委員 | サポーターの方の年代は。 | 事務局 | 60、70代が多い印象。 | 委員 | 高校など、各学校にチラシを配布すれば様々な年代の人々が集まるのではないか。 | 事務局 | 小学校などでキッズの認サポ講座を行っていることもあり、検討した |
| 委員 | 集まった人々はどの様な人達だったのか。 | | | | | | | | | | | | |
| 事務局 | 男性では農業経験のある方、自身も体が不自由だが、外で活動したいという方がいる。女性では元々三鷹市で勤務していたが、仕事が一段落したので、参加しているという方もいる。 | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | サポーターの方の年代は。 | | | | | | | | | | | | |
| 事務局 | 60、70代が多い印象。 | | | | | | | | | | | | |
| 委員 | 高校など、各学校にチラシを配布すれば様々な年代の人々が集まるのではないか。 | | | | | | | | | | | | |
| 事務局 | 小学校などでキッズの認サポ講座を行っていることもあり、検討した | | | | | | | | | | | | |

| | |
|-----|--|
| 委員 | い。 本活動を広げていくためには事務局機能が重要。人手が足りなくなっていくのではないかと。また、本会議だけではなく認まち実行委員会でも意見聴取をしているが、時間の関係もありチームオレンジに特化した議論はできていない現状がある。 |
| 事務局 | 認まち実行委員会で開催している単発のイベント等と総合的に連動していく必要性は感じている。 |
| 委員 | 参加者が尻すぼみにならない様に、介護保険事業者連絡会を通して事業所に働きかけることも必要だろう。帰宅願望のある利用者連れを連れていく行き先として、こういった場は活用したい。 |
| 委員 | 他自治体での先行事例のようなものはないのか。 |
| 事務局 | 当市と同じ様な状況の自治体がほとんどの様に感じる。 |
| 委員 | 自治会の回覧板に入れると、一度は目を通すため効果的かもしれない。 |
| 委員 | 呼称の変更について決定権はどこにあるのか。 |
| 事務局 | 市の事業なので、最終的な決定権は市にある。皆様の意見を聞きながら決定する。 |

・三鷹地域ポイントについて

令和4年12月から運用を開始。本格始動は令和6年度の予定だが、仕組みとしてはポイントを貯めて記念品（天文台の望遠鏡キット、家庭系ごみ指定収集袋等）と交換するというものになっている。三鷹ネットワーク大学でもみたか太陽系サポーターというボランティアと連動して三鷹地域ポイントを活用している例もありますので、チームオレンジの活動とも連携をできないかと考えている。

ア 委員からの意見

| | |
|-----|---|
| 委員 | 現状では直接関係はないが、このポイントは今後どの様に使われていくのか。使い勝手の良い物になると良いが。 |
| 事務局 | 令和6年度の本格稼働に向けて導入を検討する可能性もある、という点での情報提供である。企画課の方でアイデアは考えている様です。他市ではお店でポイントが使えるという所もある。 |

(2) 「令和5年度の本会議について」

本会議の歩みを振り返ると、令和2年度には行方不明高齢者探索ネットワーク事業の仕組みを作り、令和3年度に実施した。令和3年度には薬剤師会を通して薬局にアンケートを行い、包括と薬局の密な関係作りの一助となった。またチームオレンジについて意見交換を行い、認知症疾患医療センターの取組についての報告もあった。令和4年度はチームオレンジに具体性を持たせる作業を行い、コミュニティ・ガーデンの活動に繋がっていった。また、認知症ガイドブックの内容に行方不明高齢者探索ネットワーク事業を掲載するという事についてもご意見を頂いた。

令和5年度については、チームオレンジの進捗も引き続き報告を行うが、第九期の介護保険事業計画改定のタイミングなので、本会議も連動していく必要がある。令和5年度第1回の本会議では「高齢者の生活と福祉実態調査」の結果について報告を行い、第八期の取組と課題を共有した上で、意見交換を行っていただきたい。10月には素案に対して意見をいただき、2月にはまとまった案について事務局より報告を行う。

ア 委員からの意見（当事者の意見の反映について）

| | |
|----|---|
| 委員 | 当事者の意見を計画にどの様に反映させていくか、という点は本会議発足当初から話題に上がっていた。難しいだろうが、チャレンジしていくことが大切ではないか。 |
|----|---|

| | |
|----|--|
| 委員 | 認知症当事者と健常者が同じ場で議論をすると、当事者は疎外感を感じてしまう場合もある。 |
| 委員 | 認知症を受け入れられず、葛藤を抱えている方にこそ、チームオレンジの活動に参加していただけないかを感じる。 |
| 委員 | チームオレンジの活動の支え手になる認知症サポーターは、普段当事者に関わっていない方がほとんどだろうから、正しい対応ができるのだろうか、という点は心配。 |
| 委員 | オープンな場に参加していただくことで啓発に繋がるが、元々人付き合いが嫌いじゃない人でないと難しいだろう。 |
| 委員 | 認知症当事者の方が感じたことも意見として反映させたい。活動に参加して、自然な流れで質問できると良いかもしれない。コミュニティ・ガーデンはそこを大事にしてほしい。 |

ア 委員からの意見（啓発について）

| | |
|-----|---|
| 委員 | 農協との連携、空き家プロジェクトと連動できれば素晴らしい。しかし高齢者支援課だけでは収まりきらなくなるだろう。 |
| 委員 | 調整は大変だが、町内会の回覧板に挟み込むのは有効かもしれない。町会自治会の掲示板に掲載するという手段もある。地域で活動しているボランティアグループなどに周知していくのはボランティアセンターとしても協力できる。一方で、一般企業や事業所は限られてしまう。 |
| 委員 | 高齢者支援課が広報すると、どうしても福祉的な印象が強くなってしまう。福祉的な要素が出ない方が手を挙げやすくなるのではないか。地域連携・包括的な視点で募った方が良いのではないか。 |
| 事務局 | 企業からも地域連携に協力したいという話はいただく。しかし具体的に詰めていく段階でとん挫することが多いのが現状である。 |
| 委員 | 前回の議事録で若年性認知症の方が、障がいの作業所に通っていることについて記載されていた。そういう事が増やせると良いと感じるが、具体的な方策が難しい。 |

議事録署名委員

令和5年4月13日 杏林大学医学部高齢医学 神崎 恒一

令和5年5月9日 三鷹市西部地域包括支援センター 服部 将志